

PCによる箱型スクリーンのご紹介

岩田 憲治

株式会社 ソリッドレイ研究所

はじめに: ソリッドレイ研究所が手がける、PCや安価なプロジェクタによる箱型スクリーンシステムの事例をご紹介します。

背景: VR業界では、西暦2000年を境に2つの大激震が走りました。第一にグラフィックワークステーションの苦戦、第二に3管式CRTプロジェクタの衰退です。それと同時に、PCグラフィックスの台頭、液晶やDLP、D-ILAといった安価なプロジェクタの台頭といった現象が起き、VRシステムの実用性が広がりました。これを機に、弊社は高価なスクリーンシステムの代表であった箱型スクリーンシステムの安価版の販売を開始しました。

事例紹介: 今回は2つの納入事例をご紹介します。一つ目は、文部科学省メディア教育開発センター(NIME)様に納入した、ONYXとD-ILAプロジェクタを組み合わせた、5.5面(!)の箱型スクリーンシステム「TEELeX」です。ソリッドレイ研究所のONYX用VR(バーチャルリアリティ)構築ソフト、「リアルマスター」をベースとしてカスタマイズしたソフトウェアで実現しております。二つ目は、日本科学未来館(MeSci)様に納入した、PCとDLPプロジェクタを組み合わせた、4面の箱型スクリーンシステム「みんなのCABIN」です。ソリッドレイ研究所のPC用VR構築ソフト、「オメガスペース」で実現しております。

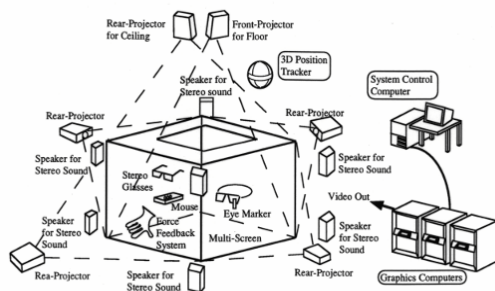


図1. TEELeXシステム構成(NIME様ご提供)



図2. みんなのCABIN写真(撮影:大東正巳氏)

デモ: みんなのCABINで上映しております。「国際宇宙ステーション」はPCとオメガスペース(ソフト)をプラットフォームとして稼動しておりますが、デモではONYXとリアルマスター(ソフト)をプラットフォームとした環境に移植してデモンストレーションを行おうと考えております。

お問い合わせ先:
株式会社ソリッドレイ研究所 営業部岩田
横浜市神奈川区鶴屋町2-20-1YTUビル5F
電話 045-324-6841
メール iwata@solidray.co.jp